

帰国後の学校選択は どうしたら よいのでしょうか？

海外子女教育振興財団
教育アドバイザー

鈴木敏彦



プロフィール(すずきとしひこ)

愛知県の公立小・中学校に38年間勤務する。1986年より3年間アンカラ日本人学校へ赴任。帰国後は愛知県内で教員、地元教育委員会で派遣指導主事、教頭、校長を歴任。2016年より(株)デンソーの海外教育相談室室長、現在も務める。2022年9月より海外子女教育振興財団の教育アドバイザーを兼務。

はじめに

帰国後の学校選択については、いろいろと不安を抱えていることと思います。現状、日本の教育制度において、小・中学校の九年間は義務教育ですので、その年齢で帰国する場合は、国立や私立等の入学・編入学選抜等を行っている学校を選択しなければ住民登録をした地域の公立小・中学校の年齢相応の学年に

入ることができません。

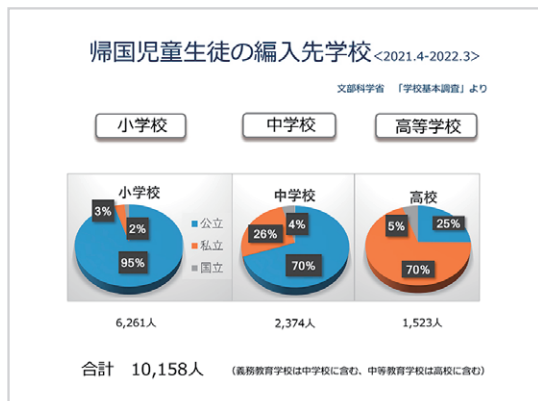
図表1は昨年度の都道府県別帰国児童生徒数、図表2は帰国児童生徒の編入先です。

帰国後、学校をどう選択するかについては、地域の実情や保護者の考え方、お子さんの年齢によっても違いが出てきます。

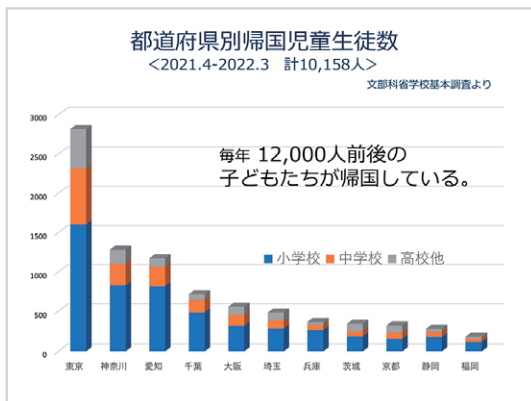
ここでは一般的な学校選択に関する考え方について話をしていきます。

帰国後の保護者の気持ちから

すでに帰国されている保護者を対象に行ったアンケートの集計結果があります。海外滞在中にしておけばよかったことについて尋ねた回答を子どもの発達段階別にご紹介しましょう。



図表2



図表1

◎海外滞在中、我が子にしてあげていたらよかったと思う」とは？『帰国便利帳』VOL.28より抜粋

△小学校低学年▽

- ①日本の公立小学校に体験入学させる

- ②日本の勉強を見る、日本語の絵本の読み聞かせ

- ③現地の友人と連絡をとる手段を確保する

△小学校中学年▽

- ①日本の面白いところを教え、興味をもたせる

- ②現地の人の考えや文化を知るための家族旅行をする

- ③現地の友人と連絡をとる手段を確保する

△小学校高学年▽

- ①進路に関する話し合いや早目の情報収集

- ②日本の面白いところを教え、興味をもたせる

- ③現地の友人と連絡をとる手段を確保する

△中学生▽

- ①進路に関する話し合いや早目の情報収集

- ②海外でやっていたスポーツを日本で続ける環境模索

- ③帰国後に通う塾探しや通う手段の確認

△高校生▽

- ①進路に関する話し合いや早目の情報収集

- ②帰国後に通う塾探しや通う手段の確認

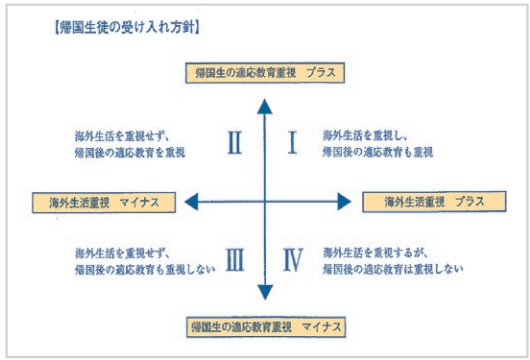
- ③日本の面白いところを教え、興味をもたせる

帰国生受入校について

帰国生受入校の受け入れ方針については、図表3のように大きく分けて四つのタイプがあります。それぞれ簡単に説明します。

タイプIは、海外経験豊かな帰国生を受け入れて、その子自身につけてきた特性を伸ばし、日本の学習で遅れている面に関しては個別指導などで補う態勢を取っている学校です。タイプIIは、海外経験を生か

図表3 帰国生の受け入れタイプによる四つの分類



したり、海外で身につけてきた特性を伸ばしたりすることよりも、日本の学習への適応教育を進めている学校です。

タイプIIIは、帰国生の受け入れは行いが、基本的に入学後に特別な指導は行わない学校です。タイプIVは、海外経験や身につけてきた外国語等に重きを置いてきた指導を行い、日本への適応教育は重視しない学校です。このように学校によって重要視する教育の内容はさまざま

すので、どのタイプの学校がお子さんに合うかよく考えて選択したいものです。

学校選択の落とし穴

帰国後、学校になじめないでいる子どもたちにその理由を聞いてみると、意外な答が返ってきたりします。

- 「設備が古い」
- 「やりたい部活がなかった」
- 「学校に行くだけで疲れる」

学校を選ぶ際は、教育方針や受け入れ態勢だけでなく、学校の雰囲気や通学所要時間、交通機関の種類などについても留意しておく必要があります。

できれば一時帰国した際、志望校を訪ねてみるとよいでしょう。通学のための交通機関を確認できるとともに、学校の様子を肌で感じ取れます。さらに可能であれば、事前に学校に連絡をして子どもたちや先生とも触れ合える時間をつくってもらえるようにするとよいでしょう。

また志望校が決まっていなくても、志望校を選ぶ基準を探るためにいくつか学校訪問してみることをお勧めします。

学校の情報を集める

帰国後の学校を選択する際、受入校をはじめ各校の情報を集めて検討することが必要です。

○学校のウェブサイトを活用

学校のウェブサイトもたいへん充実してきました。わからないこと等を質問できる「お問い合わせフォーム」もついています。なかにはオンラインで個別相談を実施している学校もありますので、気になる学校がありましたら、ぜひウェブサイトを確認しておいてください。

○書籍を活用

帰国した母親のグループ（関東地区「帰国生母の会フレンズ」や関西地区「関西帰国生親の会かけはし」）が受入校を訪問して、定期的に冊子を作成しています。母親の目線での情報もあ

り有効に活用したいものです。

○海外子女教育振興財団（JOES）を活用

『帰国子女のための学校便覧』には、帰国生を受け入れている全国の小学校、中学校、高校、大学、短大等多くの情報が掲載されています。また、JOESが毎年七月下旬に実施している「帰国生のための学校説明会・相談会」（二〇二三年度は名古屋会場・オンラインで開催）も活用していただければ生の情報を集めることが可能です。

「教育相談」では、JOESの教育アドバイザーがお子さんの教育に関する不安や疑問等にお答えしています。海外滞在中でもご利用いただけます。

相談方法はメール、電話、オンライン（面談も徐々に実施する予定）です。ウェブサイトからお申し込みできますが、お急ぎの際はお電話でも承ります。

相談料は九〇〇〇円（初回相談から一年間有効）、有効期間

内には何度でも相談できます。維持会員企業・団体に所属のかたは無料です。ぜひご利用ください。

学校を選択すること

帰国後の学校を選ぶときにまず考えておきたいことは、お子さん自身のことです。お子さんの性格、将来への希望、得意なこと、海外で続けてきたスポーツや趣味、今後も続けていきたいことなどを書き出してみよう。お子さんの現在の姿が見えてくるとともに、帰国後にどんな学校を選択したらよいかもはっきりしてきます。

そのうえで、海外での滞在期間や通学した学校での学習や生活体験等も考慮して考えてみましょう。お子さんが小・中・高のどの時期に、どんな地域に帰国するのかによっても、ずいぶん違いが出てきます。

帰国生の多い東京を中心とした首都圏と他の地域では選

きる学校の数が異なります。また、小学生は地元の小公立小学校が多く、中学生でも地域によっては公立の中学校や高校を選択せざるを得ない事情がある地域もあります。寮のある学校をあえて選択するケースもありますが、一般的には帰国生受入校を選択するお子さんが多いようです。

終わりに

コロナ禍を経て、インターネット等でも日本の学校の詳しい情報が収集できるようになりましたが、海外では帰国後の学校選択に関する情報はまだまだ入手しにくいかと思えます。

一時帰国した際の学校訪問やJOES等が実施している学校説明会等を上手に利用して情報を収集し、帰国後の学校選択に生かしてください。

帰国されるお子さんが楽しく活躍できそうな学校を家族でよく相談して決められるといいでしょう。

【本財団の教育相談では、各ご家庭の事情に合わせた個別相談に応じています】